

平成 24 年度

学校保健統計調査結果



目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	
Ⅰ 発育状態	
1 体格の平均値	2
2 30年前（親世代）との体格の比較	4
3 17歳の年間発育量と30年前（親世代）との比較	6
Ⅱ 健康状態	8
Ⅲ 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率	9

- 1 この速報は、文部科学省において集計した速報値をもとに愛知県分を取りまとめたものであり、同省が公表する報告書（平成25年3月公表予定）をもって確定値とします。
- 2 この速報は、統計課のホームページでご覧になれます。
ホームページアドレス <http://www.pref.aichi.jp/toukei/>

調査の概要

この調査は、統計法に基づく基幹統計として実施されたものである。

1 調査の目的

幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査の範囲

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下、「調査実施校」という。）とする。

3 調査の周期・期日

(1) 周期：昭和 23 年度から毎年実施

(2) 期日：平成 24 年 4 月 1 日から 6 月 30 日までの間に実施された学校保健安全法による健康診断の結果に基づき調査

4 調査の対象

(1) 満 5 歳から 17 歳までの幼児、児童及び生徒の一部（抽出調査）

(2) 調査実施校数、調査対象者数及び抽出率は、次のとおりである。

	学校総数	調査実施校数	児童等総数	発育状態		健康状態	
				調査対象者数	抽出率	調査対象者数	抽出率
幼稚園	522 園	43 園	33,090 人	1,821 人	5.5 %	3,392 人	10.3 %
小学校	985 校	65 校	423,742 人	6,167 人	1.5 %	37,044 人	8.7 %
中学校	440 校	45 校	220,898 人	5,340 人	2.4 %	26,535 人	12.0 %
高等学校	220 校	40 校	194,965 人	3,373 人	1.7 %	37,286 人	19.1 %

注：1 発育状態の調査は、調査実施校に在籍する幼児、児童及び生徒のうち、年齢別男女別に抽出された者を対象とし、健康状態の調査は、調査実施校の当該年齢の全員を対象としている。

2 中学校には中等教育学校の前期課程を、高等学校には中等教育学校の後期課程をそれぞれ含む。

3 高等学校の 18 歳以上（平成 24 年 4 月 1 日現在の満年齢）の生徒及び通信制課程の生徒は調査対象から除いている。

5 調査事項

幼児、児童及び生徒の発育状態（身長、体重及び座高）

幼児、児童及び生徒の健康状態（疾病・異常等）

6 利用上の注意

統計表の記号の用法は、次のとおりである。

「—」 …………… 該当者がいない場合

「0.0」 …………… 計数が単位未満の場合

「…」 …………… 調査対象とならなかった場合

「X」 …………… 標本サイズが小さい等のため、統計数値を公表しない場合

調査結果の概要

I 発育状態

1 体格の平均値

平成 24 年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長、体重及び座高の平均値を年齢別、男女別に見ると次のとおりである。

区 分		男 子			女 子		
		身長	体重	座高	身長	体重	座高
幼稚園	5歳	110.5	18.7	61.9	109.5	18.2	61.4
小学校	6歳	116.8	21.4	65.0	115.1	20.5	64.2
	7歳	122.3	23.7	67.5	121.4	23.2	67.2
	8歳	128.2	26.9	70.2	127.2	26.0	70.0
	9歳	133.2	30.2	72.4	133.1	29.5	72.6
	10歳	138.3	33.1	74.5	140.1	33.4	75.8
中学校	11歳	145.3	38.3	77.6	146.1	37.9	78.9
	12歳	151.3	42.6	80.7	151.6	42.5	82.1
	13歳	159.2	48.6	84.9	156.0	48.3	84.4
高等学校	14歳	165.1	53.8	88.0	156.9	48.6	85.1
	15歳	168.6	59.2	90.4	157.1	51.1	85.4
	16歳	170.0	60.4	91.0	157.3	51.5	85.5
	17歳	170.3	61.1	91.6	157.5	52.0	85.6

(1) 身長 (表 1、図 1、第 2 表、第 3 表)

① 男子

- ・前年度と比べると、5歳から9歳、11歳、14歳及び15歳で増加している。
- ・6歳及び11歳は過去最高となった。
- ・全国平均値と比べると、5歳、8歳及び14歳で同値、6歳、11歳、15歳及び16歳で上回っている。

② 女子

- ・前年度と比べると、5歳、9歳、10歳、12歳から15歳及び17歳で増加している。
- ・13歳及び14歳は過去最高となった。
- ・全国平均値と比べると、5歳及び10歳で同値、13歳及び14歳で上回っている。

(2) 体重 (表 1、図 1、第 2 表、第 3 表)

① 男子

- ・前年度と比べると、6歳から9歳、11歳及び13歳から15歳で増加している。
- ・全国平均値で比べると、15歳で同値、6歳及び11歳で上回っている。

② 女子

- ・前年度と比べると、15歳で同値、9歳、10歳及び13歳で増加している。
- ・13歳は過去最高となった。
- ・全国平均値と比べると、13歳で上回っている。

(3) 座高 (表 1、第 2 表、第 3 表)

① 男子

- ・前年度と比べると、6歳、8歳、9歳、11歳、13歳、14歳及び15歳で増加している。
- ・15歳は過去最高となった。
- ・全国平均値と比べると、5歳及び13歳で同値、6歳、11歳及び15歳で上回っている。

② 女子

- ・前年度と比べると、8歳及び12歳で同値、5歳、9歳、10歳及び13歳から15歳で増加している。

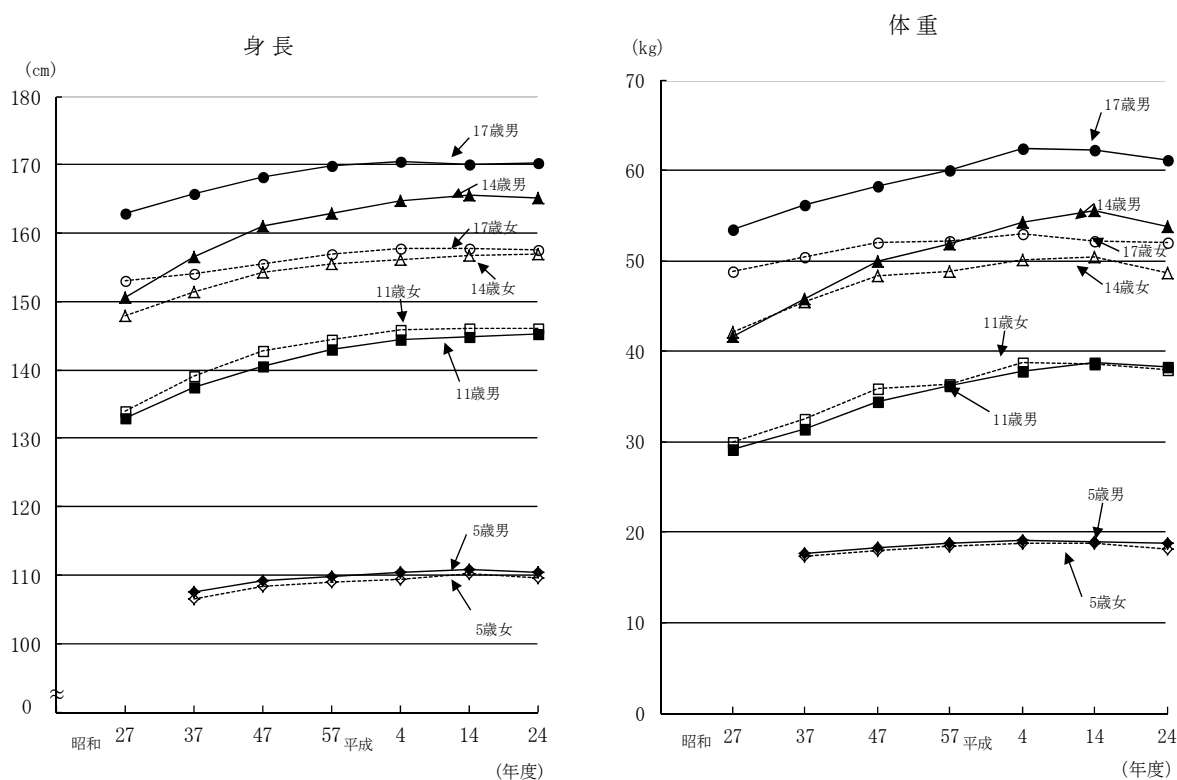
- ・13歳から15歳は過去最高となった。
- ・全国平均値と比べると、5歳、9歳、10歳及び15歳で同値、8歳、13歳及び14歳で上回っている。

表1 身長・体重・座高の年齢別平均値

区分	年齢	男子						女子						男女差		
		身長 (cm)	年齢間差	体重 (kg)	年齢間差	座高 (cm)	年齢間差	身長 (cm)	年齢間差	体重 (kg)	年齢間差	座高 (cm)	年齢間差	身長 (cm)	体重 (kg)	座高 (cm)
幼稚園	5歳	110.5	—	18.7		61.9		109.5	—	18.2		61.4		1.0	0.5	0.5
小学校	6歳	116.8	6.3	21.4	2.7	65.0	3.1	115.1	5.6	20.5	2.3	64.2	2.8	1.7	0.9	0.8
	7歳	122.3	5.5	23.7	2.3	67.5	2.5	121.4	6.3	23.2	2.7	67.2	3.0	0.9	0.5	0.3
	8歳	128.2	5.9	26.9	3.2	70.2	2.7	127.2	5.8	26.0	2.8	70.0	2.8	1.0	0.9	0.2
	9歳	133.2	5.0	30.2	3.3	72.4	2.2	133.1	5.9	29.5	3.5	72.6	2.6	0.1	0.7	△0.2
	10歳	138.3	5.1	33.1	2.9	74.5	2.1	140.1	7.0	33.4	3.9	75.8	3.2	△1.8	△0.3	△1.3
	11歳	145.3	7.0	38.3	5.2	77.6	3.1	146.1	6.0	37.9	4.5	78.9	3.1	△0.8	0.4	△1.3
中学校	12歳	151.3	6.0	42.6	4.3	80.7	3.1	151.6	5.5	42.5	4.6	82.1	3.2	△0.3	0.1	△1.4
	13歳	159.2	7.9	48.6	6.0	84.9	4.2	156.0	4.4	48.3	5.8	84.4	2.3	3.2	0.3	0.5
	14歳	165.1	5.9	53.8	5.2	88.0	3.1	156.9	0.9	48.6	0.3	85.1	0.7	8.2	5.2	2.9
高等学校	15歳	168.6	3.5	59.2	5.4	90.4	2.4	157.1	0.2	51.1	2.5	85.4	0.3	11.5	8.1	5.0
	16歳	170.0	1.4	60.4	1.2	91.0	0.6	157.3	0.2	51.5	0.4	85.5	0.1	12.7	8.9	5.5
	17歳	170.3	0.3	61.1	0.7	91.6	0.6	157.5	0.2	52.0	0.5	85.6	0.1	12.8	9.1	6.0

注：1 「年齢間差」は、当該年齢の数値から1歳下の数値を引いたものである。
 2 「男女差」は、男子の数値から女子の数値を引いたものである。

図1 身長・体重の平均値の推移

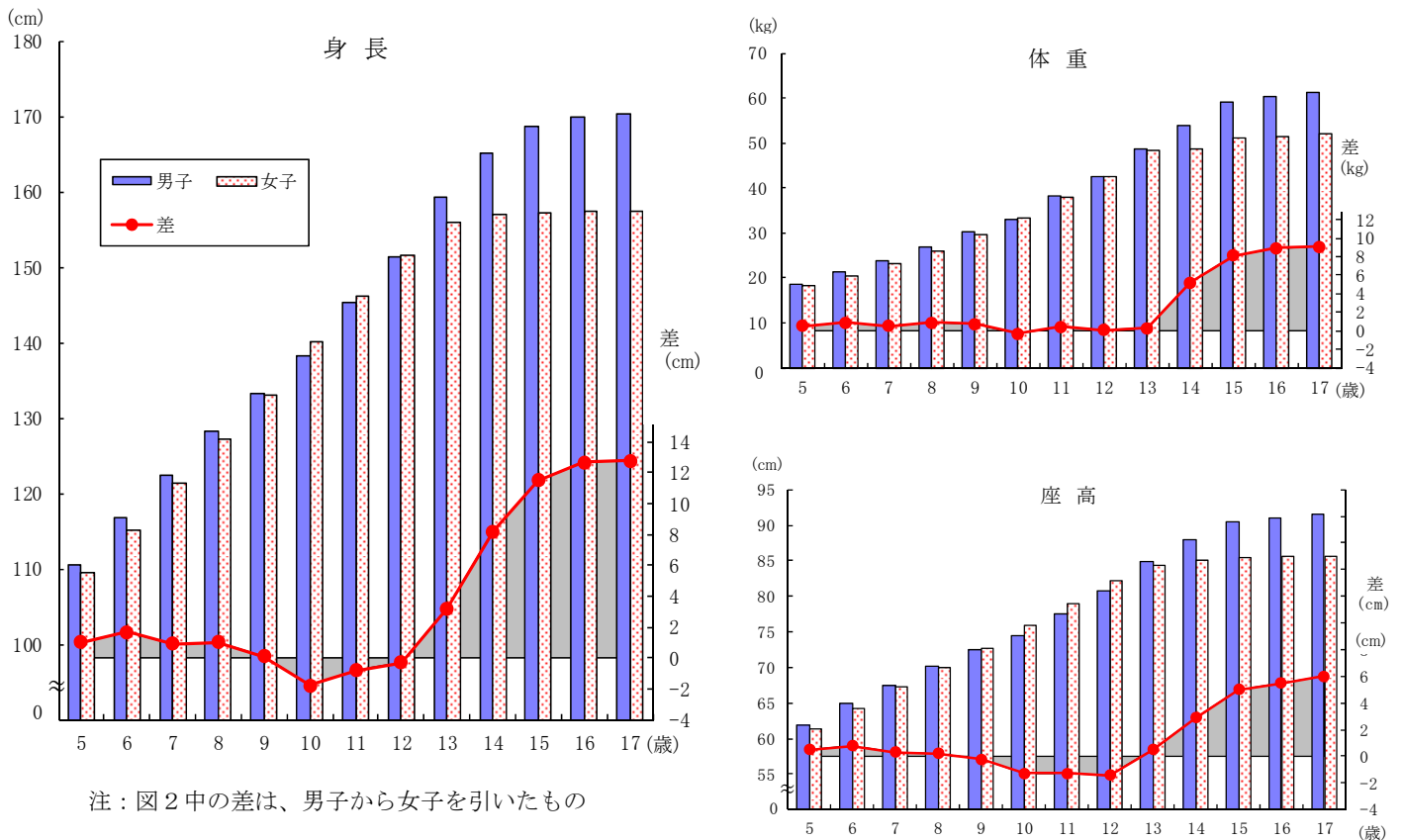


注：5歳については、昭和27年度は調査していない。

(4) 男女の比較 (表1、図2)

男子と女子を比較すると、身長・体重・座高とも12歳までは大きな差はないが、9歳から12歳は各項目でほぼ女子が男子を上回る。13歳を過ぎると、男子が女子を大きく上回り、17歳でその差は最も大きくなっている。(身長差 12.8 cm・体重差 9.1 kg・座高差 6.0 cm)

図2 年齢別・男女別の平均値



2 30年前 (親世代) との体格の比較

(1) 身長・体重・座高の比較 (図3、図4、図5、第4表)

平成24年度の平均値を30年前の昭和57年度と比較すると、男子は、身長差は11歳及び13歳 (2.3cm) で、体重差は15歳 (2.9kg) で、座高差は15歳 (2.0cm) で最も大きな開きを示している。女子は、身長差は13歳 (2.3cm)、体重は13歳 (2.5kg)、座高差は10歳及び13歳 (1.2cm) で最も大きな開きを示している。

図3 身長の平均値 30年前との比較

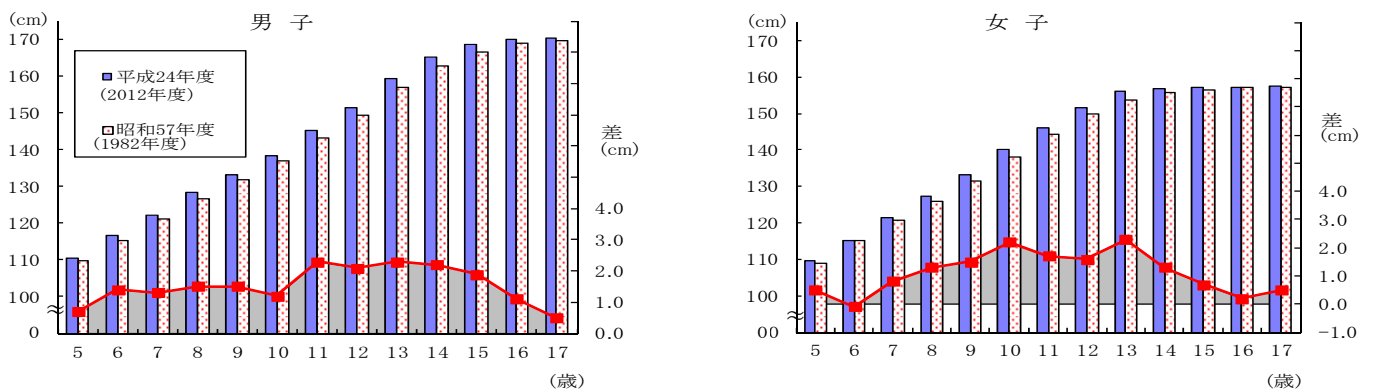


図4 体重の平均値 30年前との比較

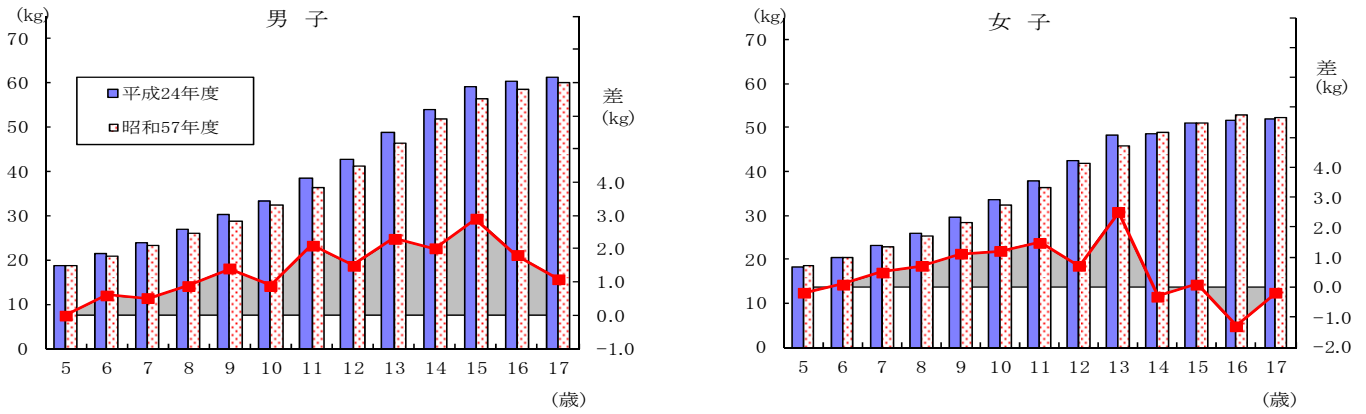
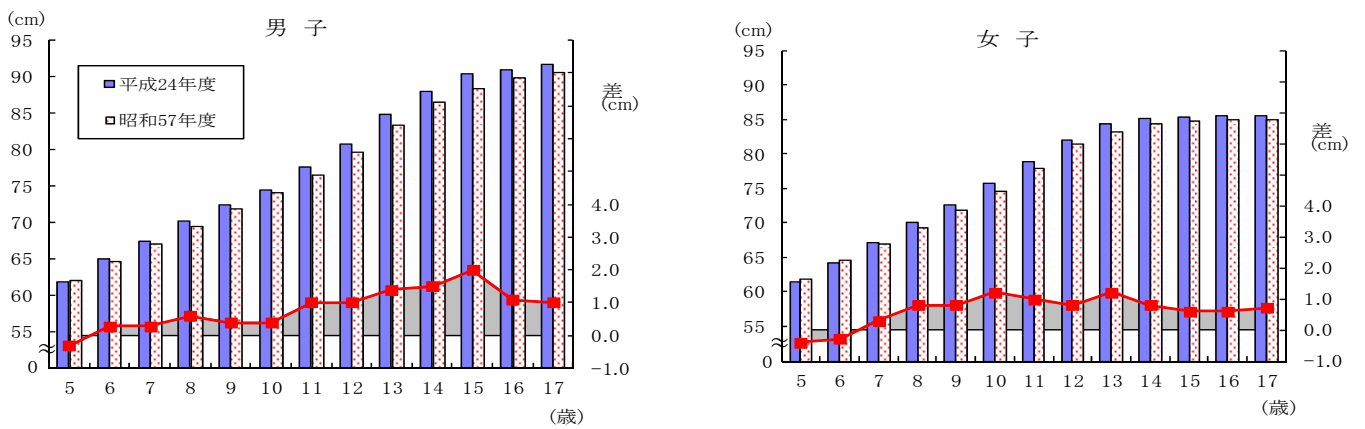


図5 座高の平均値 30年前との比較



(2) 身長に占める足の長さの割合 (表2)

身長に占める足の長さの割合について比較すると、男子は13歳から17歳、女子は8歳、10歳、11歳及び14歳から17歳でそれぞれ30年前より割合が小さくなっている。

表2 身長に占める足の長さの割合 30年前との比較

単位：%

区分	年齢	男子			女子		
		平成24年度 (A)	昭和57年度 (B)	差 (A) - (B)	平成24年度 (A)	昭和57年度 (B)	差 (A) - (B)
幼稚園	5歳	44.0	43.4	0.6	43.9	43.3	0.6
	6歳	44.3	43.9	0.4	44.2	44.0	0.2
小学校	7歳	44.8	44.5	0.3	44.6	44.5	0.1
	8歳	45.2	45.1	0.2	45.0	45.0	△ 0.1
	9歳	45.6	45.3	0.3	45.5	45.4	0.0
	10歳	46.1	46.0	0.2	45.9	45.9	△ 0.0
	11歳	46.6	46.4	0.2	46.0	46.1	△ 0.1
中学校	12歳	46.7	46.6	0.1	45.8	45.8	0.0
	13歳	46.7	46.8	△ 0.1	45.9	45.9	0.0
	14歳	46.7	46.9	△ 0.2	45.8	45.8	△ 0.1
高等学校	15歳	46.4	47.0	△ 0.6	45.6	45.8	△ 0.1
	16歳	46.5	46.8	△ 0.3	45.6	46.0	△ 0.3
	17歳	46.2	46.6	△ 0.4	45.7	45.9	△ 0.3

注：1 身長に占める足の長さの割合 = (身長 - 座高) / 身長

2 数値は小数点以下第2位を四捨五入しており、表中の(A)と(B)の差と「差(A) - (B)」の数値が一致しない場合がある。

3 17歳の年間発育量と30年前（親世代）との比較

(1) 身長（図6、表3）

17歳（平成6年度生まれ）の5歳時からの年間発育量をみると、男子は12歳時に、女子は9歳時及び10歳時に最大となっており、最大発育量を示す年齢は、男子に比べて女子が3歳早くなっている。

30年前調査（親世代）の17歳（昭和39年度生まれ）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は親の世代と同じ12歳時となっており、年間発育量は7歳、9歳及び10歳の各年齢で親の世代を上回っている。女子は発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早い9歳時となっており、5歳、6歳、8歳、9歳、11歳、14歳及び15歳の各年齢で親の世代を上回っている。

図6 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）

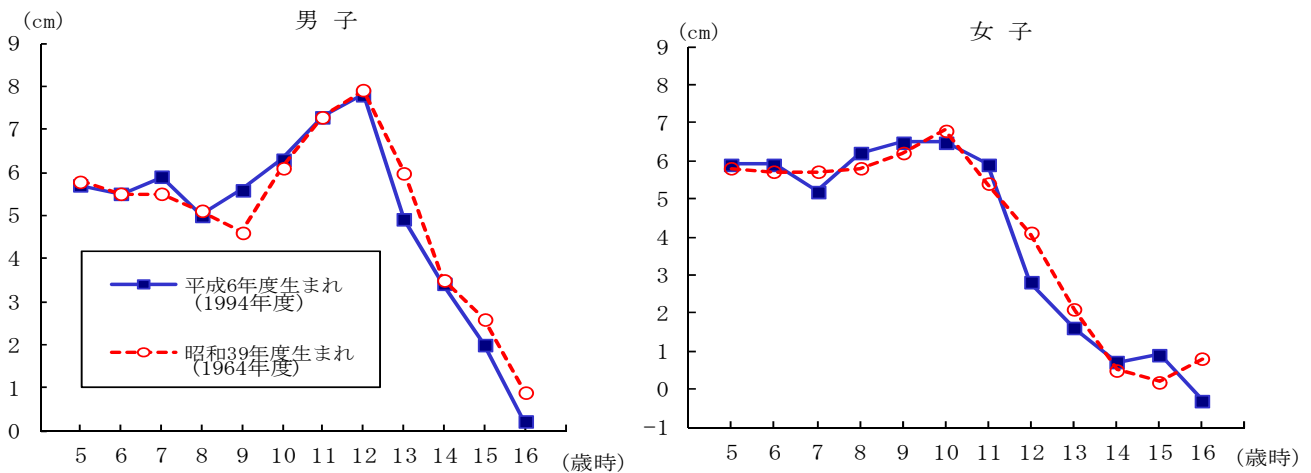


表3 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）

単位：cm

区分		男子					女子				
		平成6年度生まれ(A)	年間発育量	昭和39年度生まれ(B)	年間発育量	世代間差(A)-(B)	平成6年度生まれ(A)	年間発育量	昭和39年度生まれ(B)	年間発育量	世代間差(A)-(B)
総発育量			59.6		60.8			47.8		49.1	
幼稚園	5歳時	110.7	5.7	109.0	5.8	1.7	109.7	5.9	107.9	5.8	1.8
	6歳時	116.4	5.5	114.8	5.5	1.6	115.6	5.9	113.7	5.7	1.9
小学校	7歳時	121.9	5.9	120.3	5.5	1.6	121.5	5.2	119.4	5.7	2.1
	8歳時	127.8	5.0	125.8	5.1	2.0	126.7	6.2	125.1	5.8	1.6
	9歳時	132.8	5.6	130.9	4.6	1.9	132.9	6.5	130.9	6.2	2.0
	10歳時	138.4	6.3	135.5	6.1	2.9	139.4	6.5	137.1	6.8	2.3
	11歳時	144.7	7.3	141.6	7.3	3.1	145.9	5.9	143.9	5.4	2.0
中学校	12歳時	152.0	7.8	148.9	7.9	3.1	151.8	2.8	149.3	4.1	2.5
	13歳時	159.8	4.9	156.8	6.0	3.0	154.6	1.6	153.4	2.1	1.2
	14歳時	164.7	3.4	162.8	3.5	1.9	156.2	0.7	155.5	0.5	0.7
高等学校	15歳時	168.1	2.0	166.3	2.6	1.8	156.9	0.9	156.0	0.2	0.9
	16歳時	170.1	0.2	168.9	0.9	1.2	157.8	△0.3	156.2	0.8	1.6
	17歳時	170.3	-	169.8	-	0.5	157.5	-	157.0	-	0.5

注：1 年間発育量とは、例えば平成6年度生まれの「5歳時」の身長の年間発育量を算出する場合、平成13年度調査の6歳の者の身長平均値から平成12年度調査の5歳の者の身長平均値を引いたものである。表4について同じ。

2 網掛けの部分は、最大の年間発育量及び世代間差を示す。表4について同じ。

3 昭和39年度生まれの5歳時の数値は不詳のため、昭和38年度生まれの5歳時の数値を使用した。表4について同じ。

(2) 体重 (図7、表4)

17歳(平成6年度生まれ)の5歳時からの年間発育量をみると、男子は14歳時に、女子は11歳時に最大となっており、最大発育量を示す年齢は、男子に比べて女子が3歳早くなっている。

30年前調査(親世代)の17歳(昭和39年度生まれ)と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は親の世代より2歳遅い14歳時となっており、5歳、7歳、9歳から11歳及び14歳の各年齢で親の世代を上回っている。女子は発育量が最大となる時期は親の世代より1歳遅い11歳時となっており、5歳、7歳、9歳及び11歳の各年齢で親の世代を上回っている。

図7 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)

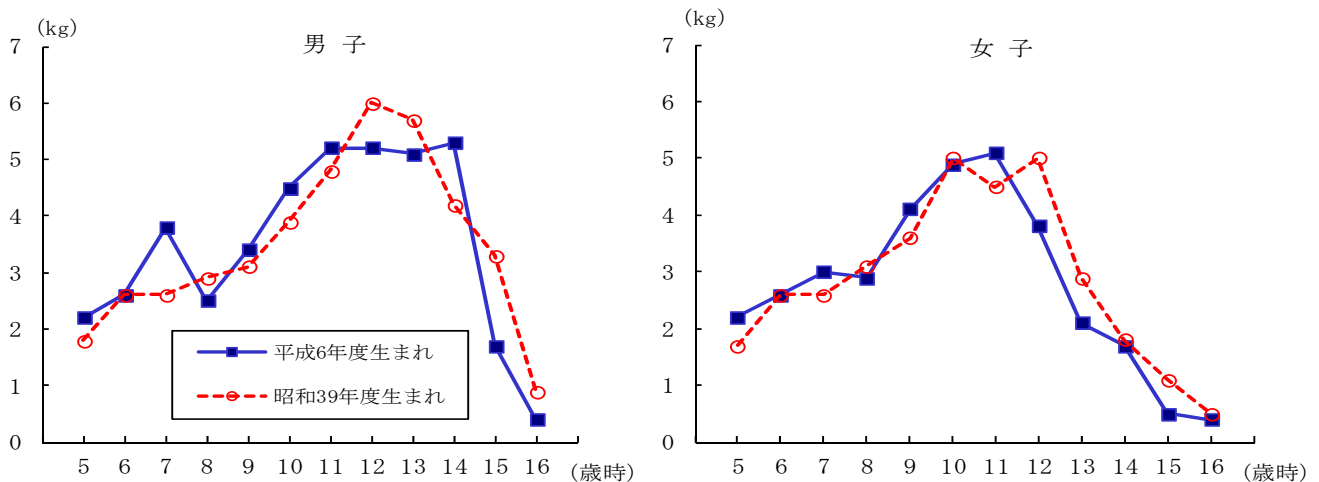


表4 平成6年度生まれと昭和39年度生まれの者の年間発育量の比較(体重)

単位: kg

区分	男 子					女 子					
	平成6年度 生まれ (A)	年 間 発 育 量	昭和39年度 生まれ (B)	年 間 発 育 量	世代間差 (A)-(B)	平成6年度 生まれ (A)	年 間 発 育 量	昭和39年度 生まれ (B)	年 間 発 育 量	世代間差 (A)-(B)	
総発育量		41.9		41.8			33.3		34.4		
幼稚園	5歳時	19.2	2.2	18.2	1.8	1.0	18.7	2.2	17.8	1.7	0.9
	6歳時	21.4	2.6	20.0	2.6	1.4	20.9	2.6	19.5	2.6	1.4
小学校	7歳時	24.0	3.8	22.6	2.6	1.4	23.5	3.0	22.1	2.6	1.4
	8歳時	27.8	2.5	25.2	2.9	2.6	26.5	2.9	24.7	3.1	1.8
	9歳時	30.3	3.4	28.1	3.1	2.2	29.4	4.1	27.8	3.6	1.6
	10歳時	33.7	4.5	31.2	3.9	2.5	33.5	4.9	31.4	5.0	2.1
	11歳時	38.2	5.2	35.1	4.8	3.1	38.4	5.1	36.4	4.5	2.0
中学校	12歳時	43.4	5.2	39.9	6.0	3.5	43.5	3.8	40.9	5.0	2.6
	13歳時	48.6	5.1	45.9	5.7	2.7	47.3	2.1	45.9	2.9	1.4
	14歳時	53.7	5.3	51.6	4.2	2.1	49.4	1.7	48.8	1.8	0.6
高等学校	15歳時	59.0	1.7	55.8	3.3	3.2	51.1	0.5	50.6	1.1	0.5
	16歳時	60.7	0.4	59.1	0.9	1.6	51.6	0.4	51.7	0.5	△0.1
	17歳時	61.1	-	60.0	-	1.1	52.0	-	52.2	-	△0.2

II 健康状態 (表5、第5表)

学校種類別に疾病・異常の被患率等をみると、「むし歯（う歯）」の割合がすべての学校種類で高くなっている。また、「鼻・副鼻腔疾患」の被患率が、小学校、中学校及び高等学校で他の疾病に比べ高くなっている。

表5 学校種類別 疾病・異常の被患率等

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
60%以上					
50%以上～60%未満			裸眼視力 1.0 未満の者	むし歯（う歯）	
40～50		むし歯（う歯）			
30～40	むし歯（う歯）		むし歯（う歯）		
20～30		裸眼視力 1.0 未満の者			
10～20			鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	
1～10	8～10	鼻・副鼻腔疾患		歯肉の状態	
	6～8	歯列・咬合	歯肉の状態 歯垢の状態	歯垢の状態	
	4～6	アトピー性皮膚炎 歯・口腔のその他の疾病・異常 眼の疾病・異常 アトピー性皮膚炎 耳疾患 歯垢の状態	眼の疾病・異常 アトピー性皮膚炎 歯列・咬合	歯列・咬合 アトピー性皮膚炎	
	2～4	耳疾患 歯列・咬合	歯肉の状態 ぜん息 心電図異常	眼の疾病・異常 蛋白検出の者 心電図異常 ぜん息	
	1～2	口腔咽喉頭疾患・異常 眼の疾病・異常 ぜん息 歯・口腔のその他の疾病・異常 その他の皮膚疾患 歯垢の状態	口腔咽喉頭疾患・異常	歯・口腔のその他の疾病・異常 栄養状態 その他の皮膚疾患	耳疾患
0.1～1	0.5～1	蛋白検出の者 鼻・副鼻腔疾患 心臓の疾病・異常	栄養状態 蛋白検出の者 心臓の疾病・異常 難聴	心臓の疾病・異常 せき柱・胸郭 口腔咽喉頭疾患・異常	せき柱・胸郭 心臓の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常 顎関節 歯・口腔のその他の疾病・異常 栄養状態
	0.1～0.5	せき柱・胸郭 顎関節 栄養状態 腎臓疾患	その他の皮膚疾患 せき柱・胸郭 言語障害 顎関節 腎臓疾患 寄生虫卵保有者	顎関節 難聴 腎臓疾患 尿糖検出の者 言語障害	難聴 その他の皮膚疾患 尿糖検出の者 腎臓疾患
0.1%未満	歯肉の状態 寄生虫卵保有者 言語障害	結核 尿糖検出の者	結核	言語障害	

- 注：1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。
- 2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者等である。
- 3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
- 4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
- 5 幼稚園及び高等学校の「裸眼視力 1.0 未満の者」については、疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

Ⅲ 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

1 肥満傾向児の出現率（表6）

（1）男子

年齢別にみると、15歳が12.16%と最も高くなっている。
全国平均と比べると、14歳及び15歳で上回っている。

（2）女子

年齢別にみると、15歳が7.76%と最も高くなっている。
全国平均と比べると、全年齢で下回っている。

2 痩身傾向児の出現率（表6）

（1）男子

年齢別にみると、11歳が3.24%と最も高くなっている。
全国平均と比べると、5歳から8歳及び14歳から17歳で上回っている。

（2）女子

年齢別にみると、14歳が7.06%と最も高くなっている。
全国平均と比べると、7歳、8歳及び13歳から17歳で上回っている。

表6 年齢別 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

単位：%

区 分		男子				女子			
		肥満傾向児		痩身傾向児		肥満傾向児		痩身傾向児	
		愛知県	全国	愛知県	全国	愛知県	全国	愛知県	全国
幼稚園	5歳	1.51	2.41	0.53	0.36	1.60	2.36	0.20	0.35
小学校	6歳	3.43	4.09	0.36	0.27	3.10	4.37	0.42	0.57
	7歳	3.90	5.58	0.57	0.49	4.29	5.23	1.22	0.60
	8歳	4.89	7.13	1.08	1.06	3.66	6.09	1.47	1.16
	9歳	8.71	9.24	1.43	1.44	6.88	7.23	1.76	1.85
	10歳	5.09	9.86	1.57	2.49	6.43	7.73	1.76	2.61
中学校	11歳	9.16	9.98	3.24	3.38	7.18	8.61	2.92	3.12
	12歳	9.08	10.67	1.71	2.40	7.10	8.64	3.30	4.18
	13歳	8.62	8.96	1.41	1.66	6.61	7.90	4.84	3.64
高等学校	14歳	8.70	8.43	2.70	1.79	5.13	7.36	7.06	3.22
	15歳	12.16	11.41	2.67	2.35	7.76	8.51	2.47	2.43
	16歳	9.31	10.25	2.86	1.89	5.16	7.74	2.88	2.12
	17歳	7.34	10.91	1.93	1.64	6.62	8.18	3.40	1.85

注：肥満(痩身)傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上(-20%以下)の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)